

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **39** 平成25年
(2013) 5月

CONTENTS

- 1 兵庫県音楽療法士認定証
交付式・記念講演会
- 2~3 平成24年度の研究成果に
ついて
- 4 研究調査報告について
- 5 平成25年度事業計画・研
究テーマ
- 6~8 人と防災未来センター
MiRAi

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

3月13日午後、「平成24年度兵庫県音楽療法士認定証交付式・記念講演会」が、兵庫県こころのケアセンターで開催されました。

新規認定者22人に兵庫県から認定証が交付されるとともに、京都大学大学院医学研究科教授の山根寛氏の記念講演会、新規認定者の実践活動発表が行われ、音楽療法を実践中の病院や学校、高齢者・障害者福祉施設等の職員、音楽療法士、音楽療法団体関係者・研究者など約150人が参加しました。



井戸知事から認定証を交付される平成24年度認定者代表

式典では、井戸敏三兵庫県知事から新規認定者に「兵庫県音楽療法士認定証」が交付されました。井戸知事は、東日本大震災の被災地を含め現場での音楽療法士としての活躍を期待するとともに、「音楽で楽しみとともに心から 自ら励ます療法進めん」という歌を詠まれ音楽療法士としての門出を祝われ、激励の言葉を贈られました。また、野間洋志兵庫県議会副議長から「皆さんの活動が音楽療法の認知や普及につながるので、活躍に期待するとともに、兵庫県議会としても『健康ひょうご』の推進の一手段として音楽療法の定着を進めていきたいと思う」と祝辞が述べられました。

続いて、兵庫県音楽療法士認定審査会を代表し

平成24年度

兵庫県音楽療法士認定証交付式・記念講演会 「音楽と園芸―養生・療法の視点より―」を開催

で、司馬良一委員長が「厳正な審査の結果、技術・適性の観点から22人を合格と判定した。これからは、研さんを積んで、対象の方の尊厳を守り、倫理性をわきまえて、喜んでいただける音楽療法の提供を願っている」との審査講評を行いました。

次に「音楽と園芸―養生・療法の視点より―」と題した記念講演会での山根氏の具体例を交えたお話は大変興味深く、新規認定者はもとより、参加者にとって大変意義深いものとなりました。

「人は植物の恵みという、人知の及ばぬ自然の摂理の中で生きてきた。音楽はその自然との共生という生活の苦しみを和らげ、祈りを助け、喜びを生み出すものとして必要なものだった。植物と音楽は深い関係にあり、会話を広げたり、生活の中で楽しみながら心身の機能を維持改善でき、リハビリテーションへもつながる。音や音楽の良さを生かして活動される皆さんには、形に捉われないいろいろな使い方をしていただけたらと思う」と、参加者に語られました。



講師の山根寛氏

兵庫県音楽療法士

音楽療法とは、「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」を言います。

兵庫県では平成11年度に音楽療法士養成事業を開始し、13年度から県独自の「兵庫県音楽療法士」の認定を行っており、25年3月までに301人を認定。養成講座は、当機構こころのケアセンターが実施しています。

平成24年度の研究成果について

■ 研究テーマと担当研究員

「高齢者就業・社会参画の拡大ー「担い手」としての高齢者へー」(平成24年度研究)

担当：加藤 泰子 主任研究員

超高齢社会となった日本では、高齢者の生活の質の向上の問題と社会全体としての労働力確保・社会保障制度の維持の問題を同時に解決する必要が生じている。そこで、「生涯現役社会」の実現に向けて、高齢者が働き、また能力を生かしていくための環境整備や社会システムの構築について検討し、政策提言を行った。



「中小企業における海外事業展開の動向と課題」(平成24年度研究)

担当：長谷川 英伸 主任研究員

海外事業展開は産業の空洞化を招くことが懸念されるが、グローバル化に直面している中小企業の存立維持を図るためには、国内市場のみならず海外市場を取り込む事業展開が必要不可欠となっている。そこで、県内中小企業の海外事業展開の動向と実態を明らかにし、海外展開を目指す中小企業に対する支援方策について検討し、政策提言を行った。



「県民参画・協働型の地域エネルギーシステムの構築」(平成24年度研究)

担当：木村 啓二 主任研究員

地域での再生可能エネルギーや省エネルギーの促進を通じて、多元分散型のエネルギーシステムの構築が求められている。そこで、担い手となるべき地域の個人、企業、団体、地方自治体等の主体が、新たな地域エネルギーシステムの構築に向けて、参画、協働していくための仕組みづくりについて検討し、政策提言を行った。



「災害時の広域連携支援の役割の考察」(平成24・25年度研究)

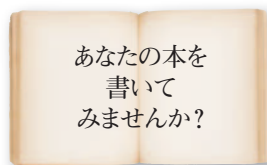
担当：善教 将大 主任研究員

関西広域連合の形成過程を明らかにするとともに、同連合が東日本大震災での広域災害支援活動として全国で初めて実施したペアリング支援(カウンターパート方式)の実態を把握し、これを事例として、行政学的見地から広域行政と防災行政に関する新たな理論の構築を目指し、広域連携支援の問題点や課題についての検討を行った。



言葉を伝える

私に伝えた
誰かのように



あなたの本を
書いて
みませんか？

小説、自伝、詩集などあなたがお書きになった原稿をご予算に応じた自費出版プランでご提案いたします。また、各企業の記念誌等の企画・プロデュースもいたしております。どうぞお気軽にご相談ください。

ISO14001
当社の印刷センターは
ISO14001の認証を
取得しています。
新聞印刷及び各種商業印刷



株式会社 神戸新聞総合印刷 印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7 ☎078-362-7180
http://www.kobepn-printing.co.jp/

企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷
出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業

「大震災復興過程の比較研究～関東、阪神・淡路、東日本の三大震災を中心に～」(平成24・25年度研究)

担当：林 昌宏 主任研究員

3つの大震災(関東、阪神・淡路、東日本)を対象に、震災をめぐる社会的認識、政府の危機管理、復旧復興の政治過程について政治学的な分析視角から比較研究し、これらを基に、今後のわが国における震災からの復興体制、災害時の強固な政府体制のあり方について検討を行った。



「ローカル・ガバナンスが創る共生社会の考察」(平成24・25年度研究)

担当：安藤 仁朗 主任研究員

ローカル・レベルで現われる貧困や格差問題、社会的排除などのリスクの実態を把握し、これらコミュニティにおける新たなリスクへの対応という視点から、課題解決の担い手としてのNPO等の中間組織の役割や意思決定のあり方、コミュニティ施策の方向性を検討した。



「国際防災協力体制構築の検討～アジアを中心に～」(平成24・25年度研究)

担当：伊賀 司 主任研究員

防災分野におけるアクターの多元化が進む中での防災をめぐるガバナンスと国際社会に貢献できる防災人材の育成、さらに防災分野で企業が果たす役割という3つの観点から、災害発生時の緊急対応を中心にアジア諸国を中心とした国際防災支援・協力体制のあり方や市民レベルでの防災意識の向上策について検討を行った。



ひょうご明日のエネルギーフォーラム
～地域からエネルギーを考える～



東日本大震災を契機に、国や電力会社任せであったわが国のエネルギー政策のあり方が問われる中で、地域発の安心で安全なエネルギーシステムのあり方について議論し、創エネや省エネを含めて、県民、地域、企業、行政が連携しながらどのように行動していくべきかについてともに考え、今後のあるべき方向を探るため、3月13日に、「ひょうご明日のエネルギーフォーラム～地域からエネルギーを考える～」を兵庫県と共催で兵庫県公館において開催しました。当日は、個人、企業、地域団体、NPOなど当初の予定を大幅に上回る約430人の参加者を得て、盛況のうちに終わりました。

【フォーラムの主な内容】

- 1 基調報告 中石 齊孝 復興庁参事官(産業担当)
「東日本大震災からの復興と再生可能エネルギー」
- 2 基調講演 新川 達郎 同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
「地域からエネルギーを考える」
- 3 研究成果報告
木村 啓二 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構主任研究員
「平成24年度研究調査報告:県民参画・協働型の地域エネルギーシステムの構築」
- 4 パネルディスカッション
新川同志社大学大学院教授をコーディネーターに、次の方々をパネリストとして、地域で省エネや創エネの取り組みを進めていく上での課題等についてディスカッションを行い、中石復興庁参事官からコメントをいただきました。

(パネリスト)

- 井上 哲也 NPO法人播磨の国おひさま進歩 代表理事
- 下村委津子 NPO法人環境市民 理事
- 田村 邦夫 株式会社東芝 東北復興推進室副室長技術統括責任者
- 宮入賢一郎 自然エネルギー信州ネット 事務局長
- 横山 孝雄 淡路地域ビジョン委員会 専門委員



研究調査報告について

「高齢者就業・社会参画の拡大」研究会が、研究調査報告を兵庫県に提言しました(平成25年3月)

上記研究会の研究報告書が、清原桂子委員長(当研究機構副理事長)から、山本嘉彦兵庫県福祉監に手交されました。

同報告書では、75歳以上の県人口がこの15年間で1.6倍に増加すること等を踏まえ、持続可能な社会へ向け、また、多くの人間関係の中での生きがいのある生活へ向け、高齢者イコール支援される人でなく、社会の「担い手」としての高齢者像への転換とそのための具体的な政策を提言しています。今年度から早速、高齢者によるコミュニティビジネスとしてのホームホスピスなどが事業化されています。



「県民参画・協働型の地域エネルギーシステムの構築」研究会が、研究調査報告を兵庫県に提言しました(平成25年3月)

上記研究会の研究報告書が、清原桂子委員長(当研究機構副理事長)から、竹村正樹兵庫県ビジョン局長と森川格同環境管理局長に手交されました。

同報告書では、兵庫県の県民運動の歴史と阪神・淡路大震災からの県民の参画と協働による復興の取り組みを、エネルギーの地産地消への兵庫県の大きなポテンシャルとして捉え、省エネと創エネ(再生可能エネルギー)について、の事例調査と具体的な政策提言を行っています。今年度は、6月を目途に、再生可能エネルギーの導入を図るための地球温暖化対策方針がまとめられることになりました。



HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

奇跡のクラーク・コレクション ー ルノワールとフランス絵画の傑作ー

クラーク夫妻の確かな審美眼で集められた所蔵品の中から、彼らがこよなく愛したルノワールやモネ、ドガ、ピサロなどに加え、バルビゾン派の作品やアカデミズムの作品等59点の日本初公開作品を含む、19世紀のフランス絵画73点を選び、ご紹介いたします。同コレクションがまとまったかたちで日本で展示されるのは初めてのことで、奇跡の作品展を、ぜひご鑑賞ください。

- 会期=6月8日(土)~9月1日(日)
- 観覧料=一般1,500(1,300)円、大学生1,100(900)円、高校生・65歳以上750(650)円、中学生以下無料
- ※()内は前売りおよび20人以上の団体割引料金
- ※割引を受けられる方は、証明できるものをお持ちの上、会期中に同館窓口で入場券を購入してください
- ※コレクション展の観覧には別途観覧料金が必要です(本展と併せて観覧される場合は割引あり)
- ※前売り券は6月7日(金)まで販売(会期中を除く)

- ◎休館日=月曜(7月15日は開館し、翌16日に休館)
- ◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
- ※入場は閉館の30分前まで
- TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA 関西

国際協力連続セミナー in JICA 関西 「~共に考えよう! 世界のためにできること~」

NGO・NPO、自治体、民間企業、国際機関などのさまざまな団体が、国際協力に携わっています。「どのような取り組みを行っているのか?」「自分たちの生活にどう直結するのか?」などについてさまざまな分野で活躍する講師がお話しします。この機会に、ぜひ、ご参加ください!

- 日時=6月3、17、24日、7月1、8、22日(いずれも月曜日) 18時30分から20時まで
- 会場=JICA 関西
- 参加費=無料 ※事前申し込み必要
- ※申し込み方法
お名前・所属・連絡先(電話番号、FAX番号、メールアドレス)を明記の上、メールまたは

はFAXでお申し込みください。メールの場合は、件名を「国際協力連続セミナー(希望日)」としてください。

食べることから始める国際協力! JICA 関西食堂の月替りエスニック料理

JICA 関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理は、6月はアフリカ料理、7月はメキシコ料理をご用意します!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



4月のマンマー料理

- メニューの詳細と写真については、こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>
- 営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで
- ※各終了30分前ラストオーダー
- 定休日=無休(但し、年末年始を除く)

- ◎申し込み・問い合わせ
JICA 関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)
〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1-5-2
TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0384
Eメール jicaksic-event@jica.go.jp <http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

赤十字の活動資金にご協力をお願いします。

日本赤十字社は、国内外の災害救護をはじめ、国際活動、血液事業、医療事業、青少年の育成、ボランティア活動など幅広い分野で活動をしています。

兵庫県支部では県民の皆さまの安全安心のため、県内の交番や駐在所などに救急箱を、警察署などにAEDを設置しています。また、AEDを使った心肺蘇生法、きずの手当てなどの知識と技術を身に付ける講習会等を各地で開催するなど、いのちと健康を守る活動を展開しています。

これらの活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金により支えられています。赤十字の活動資金にご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

- ◎お問合せ先
日本赤十字社兵庫県支部 振興課
TEL 078-241-8921 <http://www.hyogo.jrc.or.jp/>
パソコンから



平成25年度事業計画

1 基本方針

第2期中期目標・中期計画(平成22～25年度)の達成を目指し、これまで実施した業績評価の結果等を踏まえ、選択と集中、大幅な支出カットによる収支均衡に努めつつ、さまざまな政策課題についてグローバルな視点から研究調査や事業に取り組みます。さらに、東日本大震災から3年目を迎え、また南海トラフの巨大地震や首都直下地震の発生が危惧される中、被災地兵庫にあるシンクタンクとして、阪神・淡路大震災の経験と教訓の発信機能の向上を図るとともに、研究や各種事業の成果の発信、知的交流、人材育成などを推進します。

2 主な取り組み

(1) 自主調査研究事業

「安全安心なまちづくり」と「共生社会の実現」を研究テーマの視点として持ちつつ、機構内をはじめ、神戸東部新都心(HAT神戸)に集積する研究機関との連携を深めながら、阪神・淡路、東日本大震災から得られた教訓を生かした生活復興や広域連携のあり方、大災害からの復興過程の比較検証、国際防災協力体制について検討するとともに、共生社会におけるガバナンスやコミュニティのあり方など、21世紀の成熟社会における喫緊の課題についての実践的な政策研究を推進します。

(2) 学術交流事業

シンポジウム、フォーラム、セミナー等の開催、情報誌の発行、ITの活用などの多様な媒体により、機構の活動や研究成果に係る情報発信の充実に努めます。また、兵庫地域にゆかりのある多彩な知的資源の蓄積を活用した講座の開催や兵庫とアジア・太平洋の大学間の知的交流基盤の充実に取り組みます。

(3) 人と防災未来センターの運営

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、そこから学んだ教訓を未来に生かすことを通じて、防災に関する知識および技術の普及、防災政策の形成支援を行い、地震等の被害の軽減を図るため、分りやすく伝える展示事業、実践的な防災研究、災害対策専門研修の充実などに取り組みます。

(4) こころのケアセンターの運営

トラウマ、PTSDなど「こころのケア」に関する研究や研修、相談、診療、被災地支援活動などを実施するとともに、いのちの尊厳と生きる喜びを高める「ヒューマンケア」の理念に基づく人材育成を行います。

平成25年度の研究テーマ

ひょうご震災記念21世紀研究機構では、研究調査本部と人と防災未来センター、こころのケアセンターの各研究部で研究調査活動を行っており、平成25年度は次の内容の研究に取り組みます。

1 研究調査本部

- 災害時の広域連携支援の役割の考察
- 大震災復興過程の比較研究
～関東、阪神・淡路、東日本の三大震災を中心に～
- 国際防災協力体制構築の検討
～アジアを中心に～
- ローカル・ガバナンスが創る共生社会の考察
- 東日本大震災における生活復興プロジェクトの検討～被災者の「今」を支えるために～
- 過疎と都市への集中の両極化が進む中でのコミュニティづくりの研究

- 広域災害に向けた組織間連携方策の高度化
- 地域社会の復旧・復興戦略の構築

3 こころのケアセンター

- 被災地で活動する精神保健専門家への支援に関する研究
- 東日本大震災に派遣された兵庫県職員のメンタルヘルスの調査
- 子どものトラウマの効果的な心理教育ツールに関する研究
- 職場環境と一般メンタルヘルスに関する調査研究
- 阪神・淡路大震災による長期的なこころの健康への影響に関する研究
- 東日本大震災の復興期の支援に関する研究
- 子どもの心的外傷関連障害の標準的な評価方法に関する研究
- 人命救助に係る災害救援組織のハラスメントに関する調査研究

2 人と防災未来センター

(重点研究領域)

- 災害初動時における人的・社会的対応の最適化

新任研究員紹介

研究主幹 近藤 伸也



4月1日から人と防災未来センターの研究主幹として採用されました近藤伸也です。2013年3月末までの3年間、東京大学生産技術研究所の都市基盤安全工学国際研究センター(ICUS)の特任研究員として研究業務を行っていましたが、それ以前はセンターの研究員として4年半お世話になりました。私の名前を覚えている方もおられるかと思います。専門分野は主に防災対策支援ですが、災害発生後に行うべき業務を組織体制や業務の段取り、情報のマネージメントの視点から分析し、対策を検討してから研修や訓練で身に付けるまでのサイクルの確立について研究しております。

前回の在籍時には、広域災害における孤立集落支援プログラムについて紀伊半島をモデル地域として検討することや、センターの災害対策専門研修の一つである「図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース」の基となる目標管理型危機管理対応図上訓練(SEMO)の開発などを自治体職員の方々や専門家、センターの研究員・研究調査員の皆さまの協力の下で行いました。

前職では、これらの研究を継続するとともに、防災関連学会の研究分野の動向分析を防災に関連するキーワードを基に学会の大会で発表された原稿全文を分析する研究や、地域特性を踏まえた中山間地域における災害情報伝達システムの導入に関する研究を、タイやバングラデシュをはじめとしたアジアの山間・農村地域に日本のエリアメールのような携帯電話によるシステムの導入前後における情報伝達フローの変化で評価する視点と、2011年台風12号豪雨水害で被災した紀伊半島南部の自治体で用いられたツイッターアカウントの運用体制と発信内容の分析によって災害時に数ある災害情報伝達システムの一つとしてのソーシャルメディアの利用可能性で評価する視点から行っております。

今回は、災害対応に必要な能力を身に付けるための演習の開発と、演習の成果を組織の計画・マニュアルに反映するための方法論の構築も行っていきたいと考えております。東日本大震災発生から自治体をはじめとしたさまざまな組織で防災に関する取り組みが行われておりますが、大切なのはこの取り組みに対する思いを、会議でも計画・マニュアルの見直しでも訓練でも何でもいいので、後の世代に引き継いでいくことだと思います。自分の研究がその一助になるよう努めていく所存です。

研究員 渡邊 敬逸

ニュースレターをご覧の皆さま、はじめまして。4月に人と防災未来センター研究員に着任した渡邊敬逸です。私の専門は人文地理学で、これまで新潟県小千谷市東山地区における闘牛「牛の角突き」を事例に「人と動物の関係」について研究しつつ、同地にて「地域復興支援員」としてコミュニティ復興支援に従事してきました。

ご存知の方もいるかと思いますが、この牛の角突きが伝承されている小千谷市東山地区と長岡市山古志地区は、2004年10月に発生した新潟県中越地震により甚大な被害を受けた地域です。

当時、私は修士論文の執筆中。発災から約2週間後に現地を慰問に回りましたが、震源直近にあった東山地区は壊滅的な被害を受け、全住民が地区外の避難所に退避せざるを得ない状況でした。聞けば、家屋はおろか、道路、耕地、そして闘牛場や牛舎も滅茶苦茶とのこと。避難の長期化が予想され、生活再建が最優先にされる中、牛の角突きの再開なんて後回しだろう…と思いきや、私が避難所で目撃したのは、牛の角突きの早期再開を目指して意見をぶつけ合う住民の姿。牛の角突きはただの娯楽や観光資源ではなく、彼らの掛け替えのない「生活」の一部である、ということに気づかされた瞬間です。

では、彼らの「生活」の一部に少しでも関わってきた者として、その再興に当たって何をすればいいのか。これまで通り「研究」を続ける…これは「研究者」を目指す大学院生として当たり前なのですが、震災前からこの地に関わっていた自分があらためて「研究者らしい振る舞い」をするのはどこか違う、とボンヤリと考えていました。

翌年春、住民たちの尽力により、牛の角突きが再開。それまでの間、私も自分の立ち位置をもんもんと考えていましたが、導き出した答えは「ただ、そこにいること」でした。闘牛関係者を中心とする東山地区の住民と時間と場所を共有し、何気ない呟きや世間話に耳を傾け、共に身体を動かし、共に考え、共感すること。直観的に取った行動でしたが、無理やり言えば「参与観察」と言えるのかもしれない。

「ただ、そこにいること」というやり方を始めてから9年。私は職業研究者としてのスタートラインに立っていますが、今後は専門家として「研究者らしい振る舞い」をしなければならない場面も出てくるでしょう。しかし、東山地区から学んだ姿勢は私の研究者としての原点であり、これからも変わることはありません。

人と防災未来センターでは、私が経験してきた「地域復興支援員」を中心とする災害に対する人的支援制度の研究に従事する予定です。ここには実践的な場を幾重にも踏んで来た諸先輩方が大勢いらっしゃいますので、諸先輩方からの指導を基に、心に血の通った研究ができるような実践的な研究者として成長したいと思っております。皆さま、今後ともよろしくお願い申し上げます。



新任研究員紹介

研究員 古本 尚樹

4月に、人と防災未来センター研究員として着任し、従事し始めました。出身は札幌市です。前職は東京大学医学部附属病院救急部で特任研究員を、前々職は浜松医科大学医学部地域医療学講座の特任助教として従事してきました。もともとは北海道大学教育学部で社会的弱者層に対する医療や保健面でのサービスのあり方について専攻していました。その後博士課程から医学研究科に進学し、北海道の地域医療をはじめ、各地の医療や保健サービスと地域が抱える課題、特に自治体合併との関係で研究していました。浜松医大への赴任をきっかけに静岡県が抱える地域医療の問題に加え、懸案の東海・東南海地震に対応できる医療等の整備、医療体制のネットワークや地域背景を考慮した支援のあり方等と住民への防災意識高揚に向けた取り組みを進めることに尽力しています。全国の主な自然災害および人為的災害双方における自治体の対応について、聞き取り調査等にも尽力しています。東京大学では、大学院生または特任研究員として救急ヘリの搭乗者研修における質の評価や全国の二次医療圏に関する調査などを行っています。また、都市型災害に備え、大学や大学医学部付属病院における防災訓練と学生の教育、人材育成に於いて研究し、地域住民や関係機関、ボランティア等が一体となった防災活動を推進しています。



こうした経験を生かして今後は更に災害医療・保健・福祉といった分野と防災教育や地域の防災力強化に貢献したいと思っております。人と防災未来センターではこれまでの研究を更に発展させるべく、上級研究員の先生や先輩研究員の皆さまにご指導いただきたいと思っております。自分の得意とする行動力を発揮して、積極的に学術調査にも努力したいと思っております。なにぶん未熟者ですが、皆さまからのご指導、ご鞭撻を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

特別研究調査員 大山 武人



特別研究調査員として人と防災未来センターの皆さまと協働させていただき、NHK大阪放送局アナウンサーの大山です。普段は、「関西ラジオワイド」(ラジオ第1放送・関西向け・平日16時5分～18時)の木曜と金曜のキャスターを担当しています。東日本大震災を始め、今後発生が予想される南海トラフの巨大地震、毎年のように発生する豪雨災害などにより、さまざまな防災上の取り組みについてももちろん、放送のあり方についても、根本的な見直しを迫るさまざまな議論が行われています。大災害が発生した時に、より多くの人たちの避難行動に結びつき、命が助かる放送とはどのようなものなのでしょうか?人と防災未来センターの皆さまと協働する中で、考えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

私が担当している「関西ラジオワイド」では、人と防災未来センターの研究員の方ももちろん、防災のさまざまな分野の専門家・研究者の方にご出演いただいている「防災コラム」(木曜17時台後半)など、防災関連のコーナーに力を入れています。「つながる防災」(隔週木曜16時台前半)というコーナーもこの4月にスタートさせました。NHK大阪のラジオでは、災害が発生した時に、その状況を情報提供していただける方を関西各地でお願いしてきましたが、このコーナーではそうした方に電話をつないでお話をうかがっています。いざという時には、その方ご自身や周囲の方の安全を確保していただいた上で、電話やメールを使い放送局に情報提供いただき、その情報を放送で活用し、さらに多くの方の避難や被災地への支援につなげようという思いがあります。こうした情報を、ラジオ局の垣根を超えて活用しようという取り組みも進めてきました。NHKと関西民放AMラジオの7局が加盟する「AMラジオ災害問題協議会」の各社とも情報を共有できるような仕組みを作り、広く避難を呼び掛けることができるよう取り組んでいます。ただ、そのためには、通信手段が使えない厳しい状況で、どのように情報を寄せていただける方とつながる手段を確保するかというハード面の問題など、取り組むべき課題は多いです。これからの活動の中でいろんなヒントをつかむことができればと考えています。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

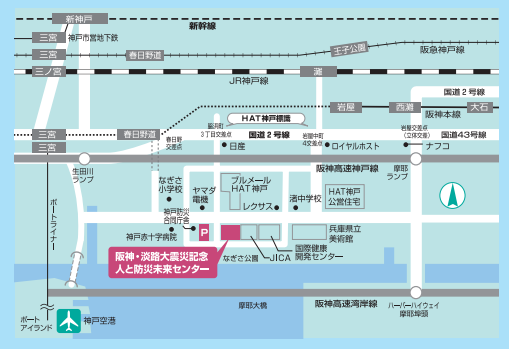
入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

休館日
毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

- 交通**
- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
 - ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分
- 有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



防災教育副読本「明日に生きる」のタッチパネルを追加しました

人と防災未来センターでは、西館2階「防災・減災体験フロア」に新たな展示として、阪神・淡路大震災を経験した児童生徒の作文等を電子文書で見ることができるタッチパネルを追加しました。

「明日に生きる」(低学年用は「あすに生きる」)は、兵庫県教育委員会が平成9年に発行した防災教育副読本ですが、震災から年月が経過し、また東日本大震災をはじめさまざまな災害が全国各地で起こる中、あらためて災害への備えが必要となっていることを受け、小学生用は23年度、中・高校生用は24年度に改訂することとなりました。

この改訂に併せ、阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に伝える役割を担う当センターでも、全国からの来館者にこの冊子を自由にご覧いただけるよう、電子文書化した資料をタッチパネルで展示しています。

もともとは小学生用の教材として作られている資料ですが、このタッチパネル展示では、子どもだけでなく大人の来館者が、当時の子どもたちの経験談を熱心に読んでいた姿が多く見受けられます。

また阪神・淡路大震災の経験談だけでなく、震災を経験した兵庫県と東日本大震災被災地をつなぐ取り組みや、これからの防災の必要性なども分かりやすく紹介していますので、ご覧いただいた来館者が、災害のことや防災・減災についてもう一度考える一助となるよう期待しています。



人と防災未来センターへの寄贈資料展示「震災資料のメッセージ」の開設

人と防災未来センターでは、「震災資料のメッセージ」と題し、西館3階「震災の記録フロア」に、新たに震災資料を年4回シリーズで展示するコーナーを設けています。展示する資料は、同センターに寄贈された阪神・淡路大震災の実物資料のうち、常設展ではなかなかお見せする機会がなかったものです。今年度は、「1.17の衝撃」をテーマに掲げ、寄贈者からの資料にまつわるエピソードとともに、阪神・淡路大震災での直接的な被害を象徴する実物資料を、被害の種類(揺れ、火災、液状化)別に展示していきます。この展示資料をご覧いただくことで、震災資料から伝わるメッセージを読み取り、地震の恐ろしさや、寄贈者の震災資料に対する思いを知っていただくことを狙いとしています。なお、「震災資料のメッセージ」で展示する資料は、今年度は以下の通り予定していますが、場合によっては変更となる場合がございます。資料に関するお問い合わせは、人と防災未来センター資料室にご連絡ください。

「震災資料のメッセージ」で展示する資料

- ① 展示期間 5月～7月
展示テーマ 「揺れの衝撃」
展示資料 割れた壺 (YASUKO Y KARTOUZOU氏寄贈資料)
- ② 展示期間 8月～10月
展示テーマ 「火災の衝撃(1)」
展示資料 溶けた硬貨 (本家オランダ館寄贈資料)
- ③ 展示期間 11月～1月
展示テーマ 「液状化の衝撃」
展示資料 液状化によって噴出した砂 (尼崎市立成徳小学校寄贈資料)
- ④ 展示期間 2月～4月
展示テーマ 「火災の衝撃(2)」
展示資料 焼け焦げたキーホルダー (芦田千代子氏寄贈資料)



当機構は、以下の組織で構成しています。



Hem21NEWS
vol.39

平成25年5月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

●管理部
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください